



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
 ニュースレター (2016年度 No. 2)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆FIT2016 (第15回情報科学フォーラム) 開催のご報告
- ◆HCGシンポジウム2016開催のご案内
- ◆2017年総合大会投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (MVE研究会)
- ◆研究会活動紹介 (ADD研究会)
- ◆研究会活性事例 (HCS)

FIT2016 (第15回情報科学フォーラム) 開催のご報告

企画幹事
吉田寛 (NTT)

第15回情報科学技術フォーラムFIT2016が、2016年9月7日(水)から9日(金)まで、富山大学 五福キャンパスにおいて開催されました。

FIT (Forum on Information Technology) は、電子情報通信学会情報・システムソサイエティ (ISS) 及びヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) と情報処理学会 (IPSJ) との合同で開催されるフォーラムで、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などの実現を目標としています。

今年で15回目となるFIT2016は、講演論文集掲載数574件、イベント企画数20件となり、多くの発表者、参加者が集う会となりました。各セッション及びイベント会場では、活発な議論がなされていました。

FIT学術賞表彰式においては、FIT2015ヤングリサーチャー賞6編、FIT2016論文賞3編、船井ベストペーパー賞3編、FIT2016船井業績賞の表彰が行われ、引き続き、FIT2016船井業績賞を受賞された「初音ミク」の生みの親であるクリプトン・フューチャー・メディアの伊藤博之氏により「初音ミクは、なぜ世界で支持されるのか」というタイトルの受賞記念講演があり、伊藤博之氏の体験を踏まえた貴重なお話を伺うことができました。

会期中のイベント企画は、「8K試験放送開始！実用化が進むマルチメディアトランスポートの最新状況と展望」「ソーシャルビッグデータの活用によるオープンスマートシティの構築」「ポストムーア時代の計算プラットフォーム」などが開催され、最新の技術動向やそれに関連するトレンドな話題が提供されました。

HCGシンポジウム2016開催のご案内

企画幹事
新井田統 (KDDI総合研究所)

毎年12月の恒例となりました。電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)が主催するHCGシンポジウム2016の開催のご案内です。

会場： 高知市文化プラザかるぼーと (高知市九反田2-1)
<http://www.bunkaplaza.or.jp/>

会期： 2016年12月7日(水)-12月9日(金)
 事前参加〆切：2016年11月20日(日)
 副題： 膨張するヒューマンコミュニケーション

最新情報につきましては、下記をご覧ください。
<http://2016.hcg-symposium.org/>

今年度は、107件(口頭発表91件、インタラクティブ発表のみ16件)の発表申込がありました。昨年に引き続き、今年もすべての口頭発表者がインタラクティブ発表でも同一内容を発表できますので、時間を気にすることなく活発な議論を行うことができます。
 また、学生の皆様のご発表や萌芽的研究のご発表が多く見られることも本シンポジウムの特徴です。これからの時代の新しい流れを生み出す場となるよう、運営委員一同準備を進めております。ぜひご参加ください。

本シンポジウムでは、一般セッションに加え、オーガナイズドセッション(OS)4件、招待講演1件を予定しております。

- OS I : 「ソーシャル・イメージング」
12月7日(水) 10:00-12:00, 13:00-14:40, 14:50-16:30
- OS II : 「霧困気工学」
12月8日(木) 10:00-11:40, 12:40-14:00
- OS III: 「G空間IoT × 行動変容」
12月7日(水) 10:00-12:00
- OS IV : 「メディアエクスペリエンスとバーチャル環境基礎」
12月8日(木) 10:00-11:40

招待講演 I : 「日本の工学の顕彰を目指して <IEEE Milestone 推奨活動>」
島村和典氏(高知工科大学・名誉教授)
12月8日(木) 15:20-16:20

シンポジウムでの活発な研究議論とともに、高知会館にて開催される懇親会・表彰式にもぜひご参加ください。

皆様、奮ってご参加ください。

2017年総合大会投稿のご案内

企画幹事
吉田寛 (NTT)

電子情報通信学会では、例年春と秋に大会を開催しており、春にはヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) を含む4ソサイエティ1グループが一室に会して総合大会を開催いたします。2017年の総合大会は名城大学 (名古屋市) において開催されますのでご案内申し上げます。

会 期：2017年3月22日(水)～25日(土)
 会 場：名城大学 (名古屋市)
 懇親会：3月23日18:30～ 名古屋栄 東急REIホテル

講演申込開始：11月4日(金)
 講演申込締切：1月11日(水)
 聴講申込開始：1月12日(木) 予定
 聴講申込締切：2月9日(火) 予定

最新の情報は下記のURLをご参照ください。
<http://www.ieice-taikai.jp/jpn/>

総合大会並びにソサイエティ大会では、優秀な論文を発表した方の中から学術奨励賞を選定しております。学術奨励賞は電子工学および情報通信に関する学問技術の奨励のために有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈するものです。平成27年度学術奨励賞授賞式は2016年総合大会で行われました。

また、例年総合大会では多数の企画セッションが開催されます。2017年総合大会においても50件の企画セッションおよび公募シンポジウムセッションが開催され、開催に向けて準備が進められています。HCGからの提案として、下記の大会委員会特別企画セッションが予定されております。

- セッション番号：TK-4
- ・教育改革を成功させるために（仮）
- オーガナイザ：小粥締夫（日本経済大学）

皆様のご講演申込み、ご参加を心よりお待ちしております。

研究会活動紹介（MVE研究会）

MVE研究専門委員長
亀田能成（筑波大）

マルチメディア・仮想環境基礎（Multimedia Virtual Media）研究会は、昨今の研究情勢の移り変わりを踏まえ、研究専門委員会を中心に、取り扱う研究分野の見直しをここ数年行ってきました。昨年2015年度のHCGシンポジウムでは、企画セッション「やっぱヒューマンでしょ：MVEが名称変更を議論する理由」を開催し、公開での議論と様々な意見を頂きました。こうした経緯を踏まえ、2017年度から、本研究会は名称を下記のように変えて改めて歩みを始める予定です。なお、略称は名称変更後も同じMVE研究会となります。
和名：メディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎研究会
英名：Media Experience and Virtual Environment

名称変更の経緯とその熱い想いについては、長い議論があるのですが、ここでは委員長（2016年度より就任/〜）の亀田能成からの主観を交えて、経緯を一部紹介します。論点の一つは、マルチメディアをメインのキーワードを定めていたことが、現在の研究情勢に馴染まないだろう、ということでした。現在、MVE研究会に集まる研究者や研究発表は、より広い範囲での、ユーザに対する情報提示新技術によるユーザインタフェースの提案とその利活用が中心となっており、その実態に研究会の名称はより近いほうが適切です。研究会の名称変更を通じて、新しいメディアに人がどのように接し、そこでどのような体験をするかについて、研究取り組みが増えれば、と考えています。バーチャル環境基礎が引き続き名称の中に残されたのは、ユーザーオリエンテッドな技術アプローチの中でも、特にVRやそれに近い技術研究発表が集まる場になれば、という思いからです。

研究会名称の経緯と新研究会の狙いについては、2017年度の初回の研究会にて特別企画を用意して改めて紹介する予定ですので、ご期待ください。

MVE研究会が扱うシステムとUIがオーバーラップするような研究分野では、他の分野以上に、研究の各段階での議論とそれに基づく軌道修正が、有益な研究成果を得ていく上で重要だと考えています。そのため、本研究会では、通常の研究発表の他、ショート発表・萌芽発表を定例会で用意しています。これは、2~4ページの予稿に基づき、10分程度の発表と10分程度の質疑を行うものです。是非ご活用ください。月によっては、ポスター発表、でも発表の機会も設けております。

研究成果の最終形態が論文であることは当然ではありますが、研究の早い段階でも、有望な研究については、注目を集めてもらうことが重要であると本研究会では考えています。そのため、毎回の研究会において、発表10件程度に1件を目安に、MVE賞を選定し顕彰しています。HCGへの推薦も、MV賞受賞者から

選ばれます。
<http://www.ieice.org/~mve/award.html>
これからも、MVE研究会の研究活動にご注目・ご期待ください。

研究会活動紹介（ADD研究会）

ADD研究専門委員長
繩手雅彦（島根大）

発達障害支援研究会（ADD: Assistance for Developmental Disorder）は2008年12月に第二種時限研究会として発足いたしました。ADDでは、発達障がいに関係する問題の解決に技術的な支援を加味することで役立てることはできないかと考え、教育機関や医療機関などと電子情報技術に関わる研究者との交流を中心に活動を行っており、障がいの早期発見や適切な支援方法の確立、効果的な治療的介入の手法の検討などに取り組んでいます。

発足から8年目を迎え、異業種の方々との交流から、ICTを用いた支援技術のいくつかが実現されるようになってきております。ボイスレコーダーとストップウォッチを手にして行っていた音読・音韻スクリーニング検査がPCを利用することで音声の自動記録と回答潜時や回答時間の自動計測を行える「ELC」というスマートな検査として図書文化社から紹介図書が出版され、また、鳥取市内の全小学校児童を対象に読みの困難の早期発見と治療的介入を行う「鳥取RTI方式」で使用されるiPad用学習アプリもAppStoreからダウンロードできるようになりました。これらは発足以来の現場の担当者と研究者の交流から生まれた成果と言えるでしょう。

また、ADD研究会では「自閉症と音声」というテーマの研究会を、2013年からおおよそ年1回のペースで実施しています。障害者のコミュニケーション研究に長く携わってこられた市川熹先生（ADD顧問）のご発案で、自閉症当事者とその支援者・関係者の皆さんと、音声研究者など理系研究者・技術者の間の相互交流の場として、専門的議論をするというよりも、多領域の間で疑問や注文など、誤解を恐れずに出し合い、相互理解を深め、将来の協力の芽となることを目指して開催されている研究会です。毎回の研究会では、自閉症スペクトラム障害児を対象として、工学的アプローチで研究を実施されている方からの話題提供をいただき、医療従事者・工学者・言語学者・当事者・関係者といった多様な立場のコメンテータおよび参加者との意見交換を行っています。多様な視点での議論が展開されることが本研究会の特徴といえます。また、毎回終了後、会場を撤収するまで、参加者同士の個別の会話が続き、今後の支援研究への展開が期待されます。

このようにADDでは現場への応用を想定した実践的な取り組みや今後の展望が期待される基礎研究など、活動頻度は高くはないものの、設立の趣旨に即した地道な活動が展開されています。今後も引き続き意見交換や発表の場を提供させて頂き、この分野の発展に貢献していきたいと思っています。

【研究会、こんなことやってます！】

本欄ではHCGの研究会で行われているユニークな取り組みを紹介しています。今回紹介するのは、ヒューマンコミュニケーション基礎研究会（HCS）の年間スケジュールの固定です。ヒューマンコミュニケーション基礎研究会（HCS）では、例年、研究会のテーマと開催時期を概ね固定しています。HCSの研究領域は多岐にわたるため、時期によりテーマを割り振ることで、参加者の年間計画に役立ち、専門の近い参加者間交流がより促進されます。毎年決まった時期に参加する人もおり、定着していることがうかがえます。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、
詳しくはHCG ホームページ<http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。

□■□
電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
Copyright (c) 2016 IEICE, All Rights Reserved.
□■□

☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨henkou@ieice.orgまで会
員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ違い
に、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、
henkou@ieice.orgまでご連絡下さい。)
ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
(社)電子情報通信学会 サービス事業部
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659